

虹*色*通*信

PROUD LIFE 活動報告誌 <創刊号>

PROUD LIFE 活動報告誌『虹色通信』創刊のお知らせ

2011年7月に任意団体として活動を開始したPROUD LIFEは、2012年11月の登記を経て正式に特定非営利活動法人となり、早くも3年目を迎えました。この間、電話相談「レインボー・ホットライン」の開設(2012年5月～)、イーブルなごや(旧・つながれっと NAGOYA)での講座開講などに取り組んでまいりました。当会の活動に賛同して下さる会員数も増加しており、2014年12月末時点では、およそ100名の会員のみなさまに支えられて活動しております。このたび、当会の活動内容を記録するとともに、新たな活動への原動力となる活動報告誌「虹色通信」を創刊するに至りました。今後とも当会をよろしくお願いたします。

名古屋のプライドパレード 虹色どまんなかパレード開催

2014年度PROUD LIFE総会/記念講演報告

PROUD LIFE 活動報告 『虹色ラウンジ』開催決定



イーブルなごや連続講座/企画から開講まで

電話相談「レインボー・ホットライン」報告

「レインボー・ホットライン基金」創設



名古屋のプライドパレード

虹色どまんなかパレード 開催!

2014年11月1日で3年目の開催となった虹色どまんなかパレード。あいにくの雨にもかかわらず、約300名の参加者が栄の中心部をパレードしました。

2014年は、会場の池田公園以外にも、集合場所として久屋大通のエンゼル広場も活用し、出発前にgolden flagsさんによるカラーガードのパフォーマンスも行いました。雨の中、名古屋のドラッグクイーンのみなさんもこぞって参加。PROUD LIFEは、第1回から事務局として実行委員会立ち上げに協力してきましたが、年を重ねるにつれて、名古屋のLGBTパレードとして定着してきたと思います。(代表理事・安間)



6本のフラッグ。6色の虹は多様性の象徴として知られる。

特定非営利活動法人PROUD LIFE 入会案内

PROUD LIFEの趣旨に賛同して下さる方は、どなたでも入会することができます。

会員には、①議決権のある正会員(個人)、②議決権のないサポーター会員(個人・団体)があります。ぜひ入会を!

(年会費: 正会員 6,000円、 サポーター個人会員 2,000円、 サポーター団体会員 6,000円)

お問い合わせ先(事務局): info@proudlife.org / 080-2660-0526 公式ウェブサイト: http://www.proudlife.org/

2014 年度 PROUD LIFE 総会 (2014 年 7 月 27 日開催)

記念講演『セクシュアル・マイノリティの現状と日米比較』報告

2014 年度役員一覧

代表理事	安間 優希 (名古屋市立大学講師)
副代表理事	風間 孝 (中京大学教授)
理事	岡村 晴美 (名古屋南部法律事務所)
理事	丹羽 咲江 (咲江レディスクリニック)
理事	倉知 孝匡 (名古屋法律事務所)
監事	中谷 豊実 (私学性教育研究会主任)

また子どもを連れた同性カップルが目につき、コミュニティの厚みを感じることができました。ステージ上で「これで LGBT の運動は終わらない、まだ全米にはトランスジェンダーであることを理由とする解雇を禁止していない州がたくさんある」と語られたのが印象的でした。(副代表理事・風間)

10~20 代の女の子が好きな女の子のサークル
「ま→ぶる」活動紹介

「ま→ぶる」は、女の子が好きな女の子のための 10 代~20 代向けの交流サークルです。若いセクシュアル・マイノリティの出会いの場所がリスクの高いネット等しかないため、安心して交流できるサークルとして 2013 年 2 月に立ち上げました。

2014 年は、新規参加者の方が楽しみやすいように、春はお花見、夏はかき氷会、秋はおでかけ、冬はお料理会とコミュニケーションを充実させた会を行いました。季節のレクリエーションと会話、ゲーム等をおりませた会で、参加者の方もスタッフも 1 年を通して楽しめたと思います。今年も、カミングアウトや、「こんなとき、どうやって乗り越えた？」などの討論会も取り入れながら、春夏秋冬を通しての季節特有の会を開催も計画しています。第 2 土曜日の午後を基本に開催していきますので、ぜひご参加ください！(ま→ぶるスタッフ)

※「ま→ぶる」では、私たちと一緒に活動を頑張ってくれるスタッフも募集しています。会の詳細を知りたい、参加したい！スタッフをやってみたい、という方は marble@proudlife.org まで

サンフランシスコの現状とは——記念講演から

在外研究で訪れたサンフランシスコの LGBT コミュニティの現状について講演しました。サンフランシスコにはカストロと呼ばれる世界でも有数の性的マイノリティが集まって住んでいる地域があります。しかし、近年ではシリコンバレーの、いわゆる「ドットコム」企業で働く人たちが、治安がよく景観も美しいカストロ地区に住むことを希望するようになってきています。その結果、地価・家賃が高騰し、性的マイノリティが住むことができず、長年カストロに住んでいた人たちが立ち退きを迫られるようになってきています。コミュニティの中での格差が大きな問題になっていました。

また、滞在中には連邦最高裁で同性婚が合法化されるという歴史的な出来事にも遭遇しました。判決が出た日の夕方にはカストロ通り 2 ブロックが歩行者天国となり、1,000 人以上が参加していました。なかでも年配から中高生と思われる人たちが、

特定非営利活動法人 PROUD LIFE 活動報告会・会員交流会 開催決定！

セクシュアリティ座談会『虹色ラウンジ』2 月 21 日 (土) スタート！

当会では、2 月より座談会形式の活動報告会「虹色ラウンジ」をスタートいたします！話題提供者を囲みながら、会員のみなさまとの親睦を深めていただけたら幸いに思います。偶数月第三土曜日に開催する予定ですので、ぜひお越しください。

- 【参加費】正会員・サポーター会員＝無料、非会員＝500 円
- 【定員】20 名程度 (参加予約は行なっていません)
- 【会場】名古屋のコミュニティスペース「rise」
(名古屋市中区栄 4-18-16 NEWS ビル 3F)

◆虹色ラウンジ第 1 回：2 月 21 日 (土) 17:00~19:00

テーマ「中学校におけるセクシュアリティ教育」
(話題提供者 守永光希さん/大学院生)

人間のセクシュアリティに関わる教育は学習指導要領に掲載されていないことから保健体育でも扱われることがありません。思春期にあたる中学生へセクシュアリティをいかに教えるか、学校教育という視点から考えてみます。

◆虹色ラウンジ第 2 回：4 月 18 日 (土) 17:00~19:00

テーマ「性同一性障害と性別違和——変化の歴史をさぐる」
(話題提供者：濱野良平さん)

2013 年 5 月に刊行した DSM-5 より、性別変更をめぐる概念が“Gender Dysphoria”と大きく変更されました。日本語訳である「性別違和」とともに、今後も概念が大きく変わっていくことが想定されます。名称の変化の歴史を追いかけて、変更に込められた意味をみなさまと一緒に考えていきます。

◆虹色ラウンジ第 3 回：6 月 20 日 (土) 17:00~19:00

テーマ「トランスジェンダー：家族と教育」
(話題提供者：恒川裕紀さん/大学生)

2014 年 9 月の、中京テレビのニュース番組キャッチに出演された恒川さんをお招きします。いっしょに番組を見た後、家族や学校でのカミングアウトしたときのことや、テレビに出演した反響などについてお話しいたします。

イーブルなごや市民企画公募事業 実施報告

『セクシュアル・マイノリティの“ライフステージ”を考える』

当会では、名古屋市の男女平等参画推進センター・女性会館「イーブルなごや」の公募事業として、セクシュアル・マイノリティをテーマとした連続講座を企画・実施しました。4回の講座を通じて延べ100名を超える方々にご参加いただき、セクシュアル・マイノリティへの関心を持ってくださいました。

◆第1回(2014年11月23日)

『セクシュアル・マイノリティの基本理解と日米比較』

講師：風間孝さん(中京大学教授)

サンフランシスコ滞在中(2013年度)に入手したサンディエゴ州立大学のセーフゾーン・トレーニングマニュアルをもとに、LGBTの学生が大学で安全に学べるようにするための支援者(アライ;ally)育成プログラムを中心に講演をしました。なかでも興味深かったのは、ホモフォビア(同性愛嫌悪)には「黙認」という形があると記されていたことでした。(a)「あなたは私にとって同性愛者ではない、ひとりの人間」、(b)「ベッドの中ですることはあなたの問題」、といった発言や態度にホモフォビアが潜んでいるということです。マニュアルによれば、(a)にはその同性愛者のセクシュアリティを尊重してない、(b)にはセックスを切り離している(セックスも含めて同性愛者)、という問題点があると記されています。日本でも少なくない数の学生がLGBTのトピックに関心をもっているのです。こうしたマニュアルを活用しつつ、支援するとはどういうことか議論を深めていくこともできるのではないかと感じました。

(副代表理事・風間/演者)



第1回講座の様子。20名を超える方々に参加いただいた。

◆第2回(2014年12月14日)

『セクシュアル・マイノリティと学校生活』

講師：藤原直子さん(椋山女学園大学教授)

第2回は、椋山女学園大学教授の藤原直子先生を講師に招いたセクシュアル・マイノリティと学校生活をテーマにした講座でした。性の多様性の基礎知識から始まり、セクシュアル・マイノリティとは何かということを再確認することができました。

学校という空間は子どもにとって1日の大半を過ごす場所です。大学を出た人は最短で計16年間も学校という場所に通いま

す。セクシュアル・マイノリティの子どもは他の子どもからのネガティブな評価に敏感です。SOSを出せず心を閉ざす子どもに対して何ができるんだろうと考えさせられました。

講座の最後にグループワークを行いました。参加者を3グループに分け、よりよい学校生活のために何ができるかを考えました。今回、学校教育に焦点を当てることで、学校にはまだまだ課題がたくさんあると再確認しました。この講座をきっかけにして、自分にできることをひとつずつ実行していこうと思います(参加者より)

◆第3回(2015年1月11日)

『セクシュアル・マイノリティと老後』

講師：永易至文さん(NPO法人パープルハンズ)

今回の講座では、介護問題や後見契約、保険や不動産など幅広く、興味深いお話を伺うことができました。講師の永易先生がおっしゃっていて特に印象的だったのは、老後の課題について「ゲイ(ここではセクマイ全体)だけの問題じゃなくて全ての人に共通するけれど、そう言ってしまうと、ゲイの問題でなくなってしまう。だから敢えて、ゲイの問題として語る」ということでした。生活の中で困ったり、病気、障害、加齢等で心身が弱ったりして、人の手助けが必要になることは、セクシュアル・マイノリティであってもなくても、だれにでもあり得ることです。だから「セクマイゆえの」問題ではないのですが、「セクマイである自分の」問題であることは確かで、知っておくことや準備しておくことは色々があると感じました。老後と言っても、正直あまり想像がつかないのですが、自分の人生のことだからきちんと向き合って考えていこう、と思わせてくれた貴重な講座でした(参加者より)

◆第4回(2015年1月25日)

『セクシュアル・マイノリティと就職活動』

講師協力：中京大学セクシュアリティ研究会(せっけん)
愛知淑徳大学ジェンダー研究会(Coalook)

最終回を飾る第4回は、学生の就職活動を通じてセクシュアリティがどのように影響してくるのか、ということをも6名の学生によるトークを通じて考えていこうという講座でした。名古屋のセクシュアリティ系の大学生サークルである「中京大学セクシュアリティ研究会」と、「愛知淑徳大学ジェンダー研究会」からも演者が登壇していて、大学生が自分のセクシュアリティを講座で話せる社会が変わっていくのを嬉しく思いました。

一方で、6名の演者が総じて「就活時にセクシュアリティの話題には触れられない」と語っていたのが印象的でした。「卒業論文のテーマがLGBTだとは言えない」、「サークル活動は隠したい」など、大学時代の貴重な経験が就職活動において不利になると思わせられている状況は非常にもったいなく感じ、聴講していて歯がゆい思いを抱きました(参加者より)

セクシュアル・マイノリティのための電話相談

『レインボー・ホットライン』

2012年5月に当会が開設したセクシュアル・マイノリティのための電話相談『レインボー・ホットライン』は、東海地区初となる本格的な電話相談として、隔週月曜19時-22時で開設されました。2013年5月以降は毎週月曜日の実施へと回数が増え、相談対応件数の増加にも柔軟に対応してきました。特にフリーダイヤル化（2013年12月～）による相談の増加効果は大きく、2014年度も継続して利用されると予測し、年度末までに160件程度の相談が寄せられると見込んでいます（図1）。

20代、30代の利用者が目立つ——若年層への支援

電話相談の利用者は、20代、30代（いずれも自己申告に基づく）が全体の過半数を占めています（図2/申告されていない「不明」を除く）。相談先が不足しがちな未成年の当事者支援を電話相談の目標のひとつとしていましたが、むしろ社会に出たあとの20代、30代の当事者への支援が不足している実態がみえてきました。社会との軋轢の中で自分を押し殺してしまい、セクシュアリティに関係する相談先も無く、孤独に悩みを抱え込みがちな様相が浮かんできます。

日常生活にも支障が——セクシュアリティが絡む問題

相談内容では、特に「セクシュアリティに関する相談」（自分のセクシュアリティがわからない、性同一性障害当事者の生活に困難を感じる、など）、「パートナーシップに関する相談」（同性パートナーとのトラブル、など）、「コミュニティや社会、家族関係に関する相談」（当事者グループを紹介してほしい、家族に理解されず戸惑っている、など）が三本柱となっています（図3）。いずれも、受け手となる相談先が不足している現状を反映したものと推察しています。

電話相談の安定した運営へ——財源確保の戦略

今後も、実施時間帯の拡大や電話相談以外の支援策の拡充を計画する一方で、「あいちモリコロ基金（2012、2013）」、「NTTドコモ市民活動への助成（2013）」よりいただいた助成金を活用して実施してきた電話相談も、運営の資金的余裕がなくなりつつあります。今後も電話相談を継続し、発展させながらも安定した運営を目指すため「レインボー・ホットライン基金」を設立いたしました。2014年中には120,000円もの寄付が寄せられ、助成金に代わる新しい財源として一定の役割を果たしはじめています（事務局）

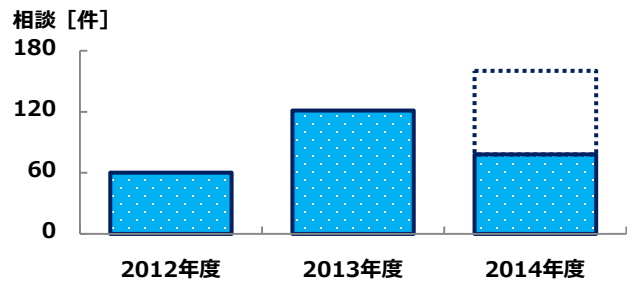


図1. 相談対応件数の推移（2012-2014）

（※2014年度は2014年10月末時点）

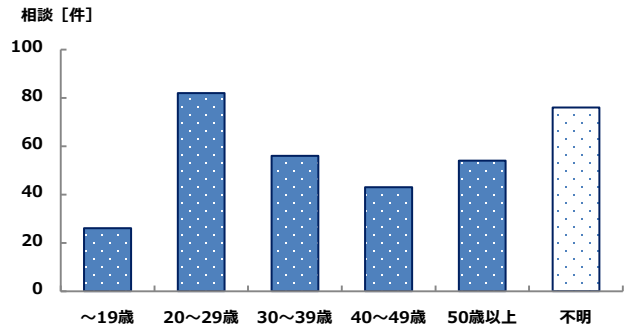
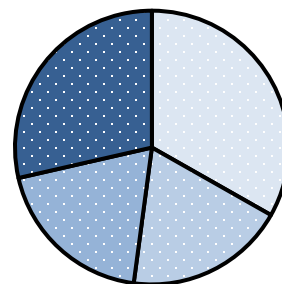


図2. 相談対応件数の推移（2012-2014 総計）



- セクシュアリティに関する相談
- パートナーシップに関する相談
- コミュニティや社会、家族関係に関する相談
- その他（情報提供、ご意見、など）

図3. 相談内容のうわわけ

【相談員の視点から】——LGBT 電話相談に携わって

電話相談員の業務に携わる中で特徴的だと感じるのは、生じている種々の問題の原因をマイノリティであることだけに帰属させる傾向です。特に頻回相談の場合、生活上の問題に正面から向き合えず、問題の原因の1つであるセクシュアリティへの逃避反応が生じ、問題を構成する他要素に目が行きにくいパターンが散見されるように思います。客観的な洞察を促すことは難しいですが、問題の構造を相談者が冷静に理解できた場合には解決に向かう場合が多く、やりがいを感じるそうです

（相談員）

特定非営利活動法人 PROUD LIFE 『レインボー・ホットライン基金』

当会の運営する電話相談「レインボー・ホットライン」の継続のため、基金による安定運営を目指しています。

ご賛同いただける方は、1口=5,000円から賛同金をご寄附いただくことができます。

【振込先】 ゆうちょ銀行：00820-5-108257 PROUD LIFE / ゆうちょ銀行以外：店番 089 当座 口座番号 0108257